

『桜』に見守られて

校長 赤坂 桂



校庭の中ほどで子供たちを見守っている桜の木。今年は3月20日の卒業式に間に合わせるかのようによく早く開花し、春を告げてくれました。4月に入って校庭を桜色に染めています。

学校の敷地の端に植えられている桜は多く見かけますが、校庭の中ほどに根を張っている高田小の桜は珍しいのではないのでしょうか。

どうしてこんなふうに植えられているのか気にな

って過去の資料を調べてみました。すると学校の樹木に関していろいろなことがわかりました。高田小には桜と同じく、見る人を惹きつける大きな木がいくつかあります。プール横のクスノキ、校舎中央のポプラ、東門近くのヒマラヤスギなどです。これらは高田小の長い歴史の中で大切に守り、育てられてきたものです。大きな変化は昭和40年代です。児童数の急激な増加のため、校地の拡張、校舎の鉄筋化が進みました。その時、運動場も土盛りをする必要があったため、多くの樹木が移植され、校庭周縁に再配置されたのです。しかし、この桜の木だけは大変弱っていたため、動かさずそのままの場所に残されました。改修が終わって60センチほど土盛りされたところで、驚くことにこの桜は新たに幹の上部から発根して成長し続けたのだそうです。それから数十年を経て今年も見事に満開し、校庭に淡いピンクの花びらを降り注いでいます。これからもずっと高田小のシンボルとして咲き誇り、卒業生を見送り、1年生を迎えてくれることを願っています。

さて、新年度が始まりました。新1年生86名を迎え、全校506名でのスタートです。高田小学校の大きな変化としてはクラス数の変更があります。学級の児童数は法令で定められており、1・2年生は1クラス35人、3～6年生は40人が上限となっています。そのため、今年度は新3年生が2クラス、新6年生は3クラスと変更になります。そのほかの学年は3クラスの全20学級です。学級数の変更に伴い、教室や靴箱の配置が昨年度と変わりますのでご確認ください。

これから始まる新しい学校生活。新しい友達、先生、教室にきっと子供たちは胸を躍らせていることでしょう。まだまだ新型コロナウイルスの影響が収まらない状況ではありますが、感染予防をしつつ、子供たちが充実した学校生活を送れるよう教職員一同、尽力してまいります。今年度も様々な行事の変更などあるかと思いますが、地域の皆様、保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。